

2 県産農林水産物の適切な消費と利用の促進

(1) 食や農林水産業に対する県民の理解と活動の促進

ア 農林水産業への興味や関心を高めるための活動の推進 農 県

農林水産業の理解促進に向けた情報の提供や知識の啓発、NPO等との協働による取組などを推進することにより、県民が農林水産業に親しむ活動を積極的に生活の中に取り入れ、農林水産業を身近に感じることができる「農のある暮らし」を実践できるよう支援します。

県のホームページへの掲載やイベントの開催などにより、食や農林水産業に関するさまざまな情報を積極的に発信し、県民の農林水産業に対する理解の促進に努めます。

県の施設の活用やNPO、企業などとの協働により、県民が農林水産業にふれる機会や場づくりを推進します。

生産者等と連携したイベントの開催や「花育」の実施により、花や緑が身近にある生活の実現をめざします。

都市近郊で活動する農業者やNPOなどとの協働により、体験農園や市民農園などの県民参加型の都市農業を振興します。

菜の花エコプロジェクトの取組を支援し、関係団体との協働により良好な景観の形成や地域おこしなどを進めます。

緑化基本計画に基づき、県民、企業、NPOなどとの協働を進めることにより、「みんなで支える多様で豊かなあいちの緑」の実現をめざします。

施策目標

28 農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合 60% (44%)



菜の花エコプロジェクトの取組



子どもの頃から花に親しむ“花育”の取組

イ 望ましい食生活の実践に向けた食育の推進 農 健 教

県民が生涯を通じて、体も心も健康で環境にも優しい食生活を実践できるよう、県や市町村をはじめ、さまざまな団体や企業などが連携・協力して、食育に関する取組の充実を図ります。

地域における食育の担い手である食育推進ボランティア等の活動を支援するなど、食に関する知識の普及・啓発を図ります。

「愛知県食育推進会議」を中心に、市町村、関係団体・企業、食育推進ボランティアなどと連携することにより、家庭や学校、職場など生活のさまざまな場面における効果的・実践的な食育の取組を展開します。

乳幼児期から青年期までの成長段階を見通した食育の体制づくりを進めることにより、若い世代の食生活を改善します。

学校における食育推進の核となる栄養教諭等と食育推進ボランティアとの連携を充実させるとともに、食育の活動に取り組んでいる学校、地域、行政の連携を強化し、それぞれの地域における活動の面的展開を図ります。

施策目標

29 食育推進ボランティアから食育を学んだ人数 100千人/年(57千人/年)



人形劇によるバランスのとれた食事の啓発



幼稚園での芋ごはんづくり

地域で活躍する食育推進ボランティア



食べ物の消化の仕組みをエプロンで説明



イベントでの食育劇

ウ 子どもの頃から身近に農林漁業を体験できる環境づくり 農 教

食や農林水産業に関する正しい知識を子どもの頃から身につけていくため、小中学生を対象にした食の大切さや農林水産業の魅力を伝える取組を農林漁業者や関係団体と連携して推進します。

学校と地域の農林漁業者や関係団体、食育推進ボランティアなどとの連携により、小中学生が農林漁業体験や調理実習、食文化の伝承など、食と農林水産業に関わる一連の内容を計画的に学習できる体制を整えます。

学校における食に関する指導において、PTAや地域などの協力を得ながら行う農林漁業体験学習等を充実させるとともに、その成果を県内に普及し、農林漁業体験学習等に取り組む学校の拡大を図ります。

施策目標

30 農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合（名古屋市を除く） 80%（63%）



農業者から栽培の話聞く小学生



農業高校生が指導する農業体験



小学校での調理実習（ソーセージづくり）



間伐作業を体験する小学生

(2) 県産農林水産物の消費と利用の促進

ア 「いいともあいち運動」等による県産農林水産物の消費拡大 農産教

「いいともあいち運動」をさらに盛り上げるとともに、地産地消や地域の名産開発の取組などを強化してより多くの県民に県産農林水産物の魅力を伝え、消費拡大を図ります。

「いいともあいち運動」のネットワーク会員や推進店、シンボルマークを表示した商品などの一層の拡大を推進し、運動のさらなる盛り上がりを図ります。

地元や県内でとれた農林水産物を活用する「愛知を食べる学校給食の日」の取組を、食育月間である6月を含めて年3回、推進月間として設け、県内すべての学校で実施します。

小中学校の学校給食や地元企業の社員食堂などにおいて県産農林水産物を積極的に活用し、愛知の食材や郷土料理・伝統料理のすばらしさを理解してもらう地産地消の取組を推進します。

農林漁業体験や食育イベントなどへの県民の参加を促し、地域の農林水産業や食文化の伝承の重要性に関する理解促進に努めます。

「いいともあいち運動」のネットワークを活用した出合いの場の設定により新商品の開発を支援するとともに、流通業界の会員等に対するPR活動や県のホームページにおける紹介などにより、新商品の販路の開拓を進めます。

コンビニエンスストア各社等と締結した「連携と協力に関する包括協定」に基づき、「いいともあいち運動」のシンボルマークを表示した商品の開発・販売を進めます。

「中小企業地域資源活用促進法」に基づく農林水産物を活用した事業計画の認定をめざす事業者を支援し、農商工連携による新商品の開発を推進します。

県内の特産品を一堂に集めたアンテナショップを県内外で展開し、県産品の販路の拡大や情報の提供を進めます。

施策目標

- 31 「いいともあいち運動」を知っている人の割合 50% (36%)
- 32 学校給食において地域の産物を活用する割合 45% (37%)
- 33 農商工連携等、多様な取組による県産農林水産物を使った新商品開発数
5年間で50品目
- 34 中小企業地域資源活用促進法に基づく計画認定件数 (県産農林水産物関係分)
毎年1件

いいともあいち運動とは

「いいともあいち運動」は、愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民に“愛知県農林水産業の応援団”になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという運動です。

また、県民に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい（利用していただきたい）という、“愛知県版地産地消”の取組でもあります。



運動のシンボルマーク

- ① 県内の消費者と生産者が
今まで以上にいい友関係になる
.....
- ② Eat more Aichi products
(イート モア アイチ プロダクツ)
"
もっと愛知県産品を食べよう
(利用しよう)

愛知県は、大都市圏にありながら全国有数の農業県でもあり、私たちの身近なところで、米、野菜、くだもの、花、畜産物などがバランス良く生産されています。これは本県の貴重な財産であり、この財産を次代に引き継ぐためにも、消費者と生産者が交流を深めたり、地域の農産物を地域内で消費したりする取組を通じて、お互いが理解し合い、信頼・協調できる関係をつくり上げることが大切です。



“いいともあいち”シンボルマークを表示した商品



県産品を販売する「ふるさと農林水産フェア」

イ 「あいち木づかいプラン」等による県産木材の利用拡大 農 産

「あいち木づかいプラン」に基づき、県産木材の利用拡大を進めるとともに、県産木材の利用意義の普及・啓発に取り組みます。

県の行う公共施設整備や公共工事において、県産木材の利用を積極的に進めます。
県産木材を活用した住宅の建設を支援することにより、利用拡大を促進します。
新たな技術を開発することにより、木材の新たな加工・利用方法や、未利用となっている木材資源の有効利用を図ります。

県産木材を利用する意義の普及・啓発に取り組み、「木」の理解者の輪を広げます。

県産木材であることを証明する「あいち認証材」制度の普及を支援します。

施策目標

35 県の公共施設・公共工事で使用する木材の県産木材利用率
50% (43%)



あいち認証材製品の展示会



親子参加による木工体験



地球市民交流センターに設置された木製水槽



航空宇宙産業研究開発施設での木材利用